



2011年 2月 1日
独立行政法人海洋研究開発機構

「次世代スパコンが拓く地震津波防災の未来像」 ～HPCI戦略プログラム分野3 地震津波課題ワークショップ～ の開催について

独立行政法人海洋研究開発機構（理事長 加藤 康宏）は、文部科学省より「HPCI戦略プログラム」（※）における分野3「防災・減災に資する地球変動予測」を実施する戦略機関の決定を受け、平成23年度から5ヵ年計画で研究開発を実施します。

本事業は、次世代スーパーコンピュータとこれを中核とするHPCIの性能を最大限発揮させ、戦略目標である「次世代型地震ハザードマップの基盤構築と津波警報の高精度化」の実現に向け、世界最高水準の研究成果を創出することを目的としています。

今回のワークショップでは、5ヵ年の実施計画をより具体化するため、4つのテーマ「阪神大震災の教訓を活かす」、「地震再来シナリオ研究の展望」、「地震津波予測研究の目指すもの」、「都市災害とその対策」を通じて、防災研究分野ならびにシミュレーション研究分野の最先端へ迫るとともに、今後の展望に関する議論を行います。

記

1. 日 時 : 平成23年2月28日（月） 10:00～17:30
2. 会 場 : 甲南大学ポートアイランドキャンパス レクチャーホール [別紙](#)
3. 入場無料・事前登録不要
4. 主 催 : 独立行政法人海洋研究開発機構
5. 後 援 : 甲南大学、財団法人計算科学振興財団
6. プログラム : [別紙](#)

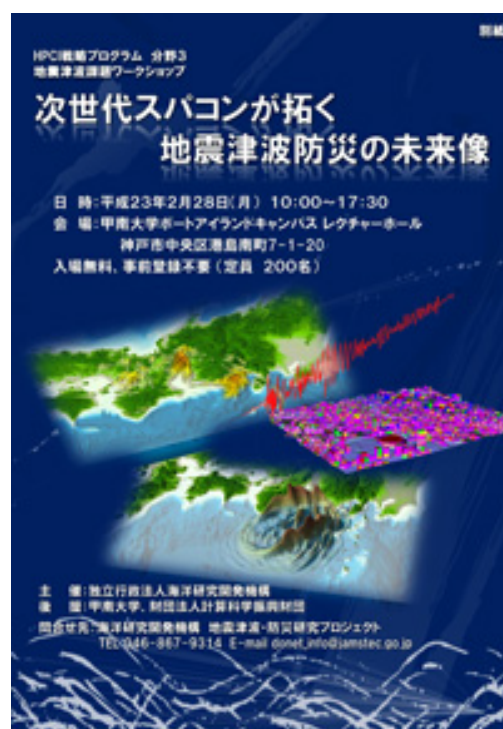
※「HPCI戦略プログラム」

（1）次世代スーパーコンピュータを中核としたHPCIを最大限活用して画期的な成果を創出、（2）高度な計算科学技術環境を使いこなせる人材の創出、（3）最先端コンピューティング研究教育拠点の形成を目指し、社会的・学術的に大きなブレークスルーが期待できる分野（戦略分野）ごとにHPCIを用いた研究開発を実施するとともに、計算科学技術推進体制を構築するプロジェクトです（文部科学省が平成23年度～平成27年度の5ヵ年計画で実施）。平成22年度においては、その準備として推進体制の構築を目指しています。

独立行政法人海洋研究開発機構を研究代表機関とする戦略分野3「防災・減災に資する地球変動予測」では、「地球温暖化時の台風の動向の全球的予測と集中豪雨の予測実証、および次世代型ハザードマップの基盤構築と津波警報の高精度化」を目標としており、地震津波防災分野では「地震の予測精度の高度化に関する研究」、「津波警報の高精度化に関する研究」および「都市全域の地震等自然災害シミュレーションに関する研究」を実施します。

革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ（HPCI）：次世代スパコン「京」と国内のスパコンをネットワークで結び、多くのユーザが利用でき、データの共有や共同分析などが可能となる革新的な計算環境（2012年秋運用開始予定）

別紙



[リーフレット\[PDF：1.53MB\]](#)

お問い合わせ先：

独立行政法人海洋研究開発機構

（ワークショップについて）

地震津波・防災研究プロジェクト 研究企画グループ グループリーダー

中山 敦志

（報道担当）

経営企画室 報道室長 中村 亘